

二〇二五年度(令和七年度) 一般選抜型選抜 前期 国語 問題用紙

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。

一 次の①～④の傍線部分の読み方を書きなさい。また、⑤～⑧の傍線部分を漢字に直しなさい。その際、必要なら送り仮名も書くこと。

- ① 犯行の動機は怨恨によるものだった。
- ② 少子化で大学受験の苛烈さは薄れている。
- ③ ライバル企業同士が市場開拓のために呉越同舟した。
- ④ 豆を火にかけて十分に煎る。
- ⑤ 彼からの鋭い指摘にいふの念を覚えた。
- ⑥ 敵のがじように乗り込む。
- ⑦ じゆくすいして最寄り駅を乗り過ごす。
- ⑧ 彼女はすぐれた小説家だ。

二 次の文章を読み、問一から問六に答えなさい。

テレビから「お盆なので、帰省して親孝行します」というインタビューが流れる時期が今年もやってきた。

考えてみれば、お盆とは不思議な言葉だ。ルーツは仏教の「盂蘭盆会」で、餓鬼道に落ちた母を救った親孝行の話が由来だ、という説がある。

先日、文芸評論家の三宅香帆さんと臨床心理士の信田さよ子さんの対談を聞く機会があった。そこで「教育現場における『親孝行』のナチュラリストール」が話題にのぼった。

例に挙げたのが、全国の小学校で広まる「2分の1成人式」。10歳の節目に、親への感謝の手紙を読み上げると、親も思わず涙して——という行事だ。それぞれの家庭事情への配慮に欠けると、これまでも批判されてきた。

「家族は仲良く、という社会規範がもう少なくなれば楽になれるのに」と三宅さんが話すと、信田さんは家族への規範は弱まるどころか、ここ最近、強まっているのではないかと返した。20代の人との会話の中で、「親孝行」という言葉が自然に出てくることに驚くという。

戦前、国は「孝」を「忠」に結びつけ、親孝行を絶対的な価値とみなしてきた。戦後、家制度は解体されたが、信田さんは「日本には、それに代わる原理がまだないのではないか」と指摘する。

2人の会話を聞きながら、恥ずかしながら私も「親孝行はいいことだ」と思考停止していたこ

とに気づいた。そして親孝行は「b 呪いの言葉」にもなり得ることに気づき、ハツとした。

というのも、子どもを暴力や過干渉で支配しようとする親をテーマにした連載「さらば毒親」の取材をした際、当事者から異口同音に言われたのだ。

周囲に相談しても、「育ててもらった恩を忘れるな」とたしなめられてしまう。自身も「親子は仲良くすべきだ」という社会規範を内面化しているから、罪悪感を覚えてしまう——と。

彼らは長年、「親を捨てたい」「でも親から愛されたい」という「X」と闘ってきた。親孝行という言葉にも、疑問を持ちつつ「疑問を持つ自分の方がおかしいのでは」と悩んでいる。せめて後者の葛藤がなければ、もう少し楽になるのに……と考えてしまう。

統計数理研究所が実施する日本人の国民性調査によると、1963年以降、大切な道徳として「親孝行」「恩返し」を挙げる人は増える一方で、「権利尊重」「自由尊重」は減る傾向にある。

これが、「教育現場における『親孝行』のナチュラリインストール」が原因かどうかはわからない。ただ、これだけ家族の多様性が言われる時代に、親孝行すべきだという同調圧力が強まることに、d 危うさを感じる。

人の心をしばりつける呪いの言葉の多くは、立場が強い人から弱い人へと向かう。一見、相手も思いやるかのような体を取りつつ、背くとよくないことが起こることをにおわせる、巧妙な言葉だ。でも狙いは、自分の考えを押しつけ、相手を支配するところにある。「親孝行」という言葉も、権力を持つ親が、子どもを支配するのに便利な道具として使うこともできる。だから、この言葉を無自覚に使うことは、凶器にもなり得る。

かくいう私も、親の立場にある。私にとっての親孝行を問われれば、子どもが幸せな人生を送ることにほかならない。そこに、親の「思い」や「期待」を潜ませてはいけないと、自戒をこめつつ。

(出典：岡崎明子「多事奏論 心をしばりつける言葉「親孝行」に感じる危うさ」朝日新聞「二〇二四年八月一〇日 朝刊」)

問一 傍線部 a 「親孝行はいいことだ」とあるが、その背景について、この文章よりも前の段落の言葉をを用いて七十字以内で説明しなさい。

問二 傍線部 b 「呪いの言葉」と同様の意味合いで使用されている言葉について、この後の段落から五字以内で抜き出しなさい。

問三 空欄 X に入る言葉として適切なものを、本文中から漢字二字で抜き出しなさい。

問四 傍線部 c 「疑問を持つ自分の方がおかしいのでは」という状態に陥ってしまう心理にはどのような考え方が根付いているのか。本文中から十七字で抜き出しなさい(句読点を含まない)。

問五 傍線部d「危うさを感じる」のはなぜか。本文中の言葉を用いて六十字以内で説明しなさい。

問六 本文を読み、内容に当てはまるものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア お盆に帰省し、家族が仲良くするという社会規範が行き届いた日本を賛美する。

イ 「親孝行」という価値観はある種絶対的なものであり、そこから家族の在り方について見つめていくことの重要性を指摘する。

ウ 同調圧力の強さがこの国の持ち味であり、それは他国と比較する事より一層顕著となる。

エ 一見良いものに見える「親孝行」も、人の心をしばりつける「呪いの言葉」に変化する巧妙な言葉である。

オ 立場が強い人から弱い人へと向かう考え方を否定し、立場が弱い人から強い人に命令できる社会へと変化していくべきだ。

### 三 次の文章を読み、問一～問六に答えなさい。

僕は武道家ですから、「**A**」**X**「**る**」ということがあっては困る。「**X**」**て**、びっくりして腰を抜かすというような事態は避けたい。まあ、武道家でなくても、誰でもそうだと思います。すけれど、「**X**」**る**と生物は一気に生命力が減殺します。場合によっては死んでしまうこともある。

「**A**」、僕は「起きるかも知れない最悪の事態」についてできるだけ幅広く想像力をめぐらすようにしています。例えば、寝る前にパジャマに着替える時には「夜中にゲシュタポが来て拘引されるときに、この恰好でオツケーだろうか？」というようなことを考えます。ゲシュタポなんか日本にないのに、それでも。エレベーターに乗る時には、「エレベーターが故障して数時間閉じ込められる場合」に備えて、事前にトイレに行くようにしています。そういうふうにも「最悪の事態」を考えています。

こういう想像力の使い方をする人は日本社会にはあまりいません。日本ではどちらかと言うと、「起こり得る」**B**「の事態」を想像して、「そうすれば経済波及効果が数兆円」とか「世界中から『日本スゴイ』と絶賛の声」とか、そういうおめでたい話が好まれます。かつて大日本帝国戦争指導部が、陸軍参謀の上げてくる「すべての作戦が成功すれば皇軍大勝利」というタイプの樂觀的な戦況予測だけを採用して、そのせいで「**C**」な敗北を喫したことを日本人は本気では反省していない。僕にはそんなふうに見えます。今も、五輪だ、万博だ、カジノだ、リニアだ、原発だ、と「一発当たれば大儲け」というタイプの話にはみんな夢中になるけれども、そのプロジェクトが失敗した場合に「被害を最小化するためにはどういう手立てを講ずればいいのか」という問いは誰も発しません。プロジェクト会議の最中に「失敗した場合の被害の最小化」について話し始めるメンバーはたぶん全員から憎しみに満ちたまなざしを向けられて「縁起でもないことを言うな」と一喝されて黙らされるはずです。

3/8 その結果、<sup>a</sup>今の日本社会では誰も「起きる可能性のある最悪の事態」について語らなくなった

し、想像さえしなくなつた。

そう強い口調で断言できるのは、「リスクヘッジ」も「フェイルセーフ」も「レジリエンス」も日本語の語彙にないからです。日本は伝統的に外来語を漢字二字の熟語にすることで日本語の語彙に（ということ）は日本人の意識の中に取り込んできました。「個人」も「社会」も「科学」も「哲学」も明治時代の先人たちが訳語を作つて日本語に取り入れたのです。でも、「リスクヘッジ (Risk Hedge)」<sup>a</sup>つて訳語がないでしょう？「危険が発生する確率や内容を予測し、それを回避し、被害を最小限にとどめる対策を立てて備えておくこと」<sup>b</sup>です。こんな大事なことなんですから、漢字二字の訳語を作つてもいいと思いませんか？「避危」とか「抑難」とかじや意味がわからないというのなら、いつもやつているようにカタカナ四文字に短縮する手があります。これまでだつて「デジタル」とか「ワープロ」とか「プログレ」とか「ポリコレ」とか「セクハラ」とか、外来の概念はカタカナ四文字に縮約することで日本語の語彙に登録してきたじゃないですか。でも、「リスヘジ」<sup>c</sup>つて言わないですよ。

「フェイルセーフ (Fail-safe)」も同じです。これは機械が制御不能になった時に「安全な側」で機能停止するように設計することです。線路の遮断機は停電して止まる時には必ず「下に下がる」ように設計してあります。自動車のエンジンが壊れた時には必ず「回転数が下がる」ように設計してあります。機械製造については「フェイルセーフ」は世界標準ですから日本のメーカーでもそうしていると思いますけれど、<sup>b</sup>それを社会的現実<sup>a</sup>に適用するということはしていません。

「レジリエンス (Resilience)」は工学的には歪められたり曲げられたりした素材が原形に復する力のことですが、ひろく心理学的には「<sup>a</sup>」<sup>b</sup>として用いられています。でも、適切な日本語訳がない。「復元力」「耐久力」「再起力」でもいいんですけど、ニュアンスが伝わらない。それなら四文字略語にすればいいのだけれど「レジリエ」とか「レジエン」とかいう略し方を僕は耳にしたことがありません。

訳語がない、略語がないというのは、日本人が無意識のうちに、「そんな概念は土着させない」と断固として拒否している、ということなんです。僕はそう思います。僕の個人的「D」に過ぎませんから、いかなるエビデンス<sup>a</sup>もありませんが（そう言えば「エビデンス」も訳語・略語がない概念ですね）。

つまり、日本社会には「起こり得る最悪の事態」について想像し、それがもたらす被害を最小化するための具体的な手立てを準備しておくという知的習慣がない。それも無意識的な仕方である。そのような知的習慣を拒絶している。そして、このかなり特異な心理機制が日本社会の脆弱性を高めているように僕には思われるのです。

僕は一日本人として、この国がいつまでも栄えていて欲しい、国民に愉快に暮らして行ってもらいたいと願っています。ですから、不意を衝かれて「突然死」するような目には遭わせたくない。そのためにも、できるだけ網羅的かつ具体的に「起こり得る最悪の事態」について想像するようにする。「縁起の悪い話をするな」とか「お前のような敗北主義者がむしる敗北を呼び込むのだ」という「E」はあえて甘受する覚悟です。

（出典：内田樹『コモンの再生』文藝春秋・二〇二四年）

〈註〉

（一）エビデンスとは、「evidence」に由来する外来語で、「証拠」「根拠」「裏付」「証言」などの意味がある。

医療や行政、金融など、その意味や使われ方は分野によって異なる。

問一 三箇所ある空欄Xには、まったく同じ表記が隠されている。この空欄Xに入れるべき表記を、本文中の後ろから数えて一つ目から三つ目の段落の範ちゅうから探して六字で答えなさい。

問二 空欄A～Eに入れるべき言葉として最も適した言葉を、次のア～ソから選び、記号で答えなさい。

ア ですから	イ しかし	ウ また	エ 最良	オ 最悪
カ 想定	キ 残念	ク 致命的	ケ 僅少	コ 意向
サ 仮説	シ 感想	ス 指導	セ 支援	ソ 批判

問三 傍線部aに「今の日本社会では誰も「起きる可能性のある最悪の事態」について語らなくなったし、想像さえしなくなった」とある。筆者が示すこのことの原因として不適切な内容を次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 「リスクヘッジ」「フェイルセーフ」「レジリエンス」に該当する日本語の語彙がないから。  
イ 「リスクヘッジ」に該当する漢字二字の訳語がないから。

ウ 「レジリエンス」の日本語として「復元力」「耐久力」とした場合、そのニュアンスが伝わらないから。

エ 「レジリエンス」を「レジリエ」のようにカタカナ四文字に縮約し日本語の語彙登録をしていないから。

オ 「エビデンス」にも日本語の訳語や略語がないから。

問四 傍線部b「それを社会的現実に応用する」とあるが、このこと具体例として不適切な説明を次のア～カから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 公道を走る自動運転仕様のバスに不具合が生じたとき、ゆっくり停止する機能を実装する。

イ 人工知能(AI)が犯罪に使われる最悪のリスクを明らかにして、これに対する法律と規制を整備する。

ウ 過疎化でその集落の人口がゼロになった場合を想定し、治水や自然保護の環境保全を計画する。

エ 原子力発電所が放射線漏れを引き起こした場合、これを想定した避難方法や被爆対策を講じる。  
オ コロナ禍の反省を踏まえ、次のパンデミック(感染爆発)が起きないように予防対策を講じる。

カ 南海トラフ沖地震が発生することを踏まえ、最悪の被害や社会活動の損失をシミュレートし復旧と復興の街づくりを構想する。

問五 空欄Yに入れるべき語句として最も適した内容を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 危険な状況に直面してもそこから退散し危機を回避できる能力。
- イ 危険な状況に直面しても正常な平衡状態を維持することができる能力。
- ウ 環境の変化の激しいなかでリスクをとって競争に勝っていける能力。
- エ 環境の変化に乗じてイノベーション（革新）を起こしていける能力。

問六 傍線部c。「このかなり特異な心理機制が日本社会の脆弱性を高めている」とあるが、これに対処するためにどのようなことが求められるか。筆者の主張を簡潔に述べるとともに、これに対するあなたの考えも付して一四〇〜一六〇字でまとめなさい。





問一

Vertical grid for question 1

問二

- A ~ E options

問三

- Options for question 3

問四

- Options for question 4

問五

- Options for question 5

問六

Main grid for question 6

160字 140字

Registration information box

二〇二五年度 一般選抜型選抜 前期国語 解答例・出題意図

一 (計16点)

- ①「えんこん」 「 」 ②「かれつ」 「 」 ③「ごえつごうしゅう」 「 」 ④「い」 「 」  
⑤「畏怖」 「 」 ⑥「牙城」 「 」 ⑦「熟睡」 「 」 ⑧「優れた」 「 」  
(2×8＝16点)

二 (計40点)

問一

【解答例】

戦前の日本は「孝」は「忠」に結びつけ、親孝行を絶対的な価値とみなす。また、現在それに代わる原理はまだないと指摘されていることが要因である。

【出題意図】

文章読解力と、論理構造を読み取る力を問うている。

(8点)

問二 同調圧力 (巧妙な言葉) (凶器)

【出題意図】

文脈を読み取る力と、語彙力を問うている。

(6点)

問三 葛藤

【出題意図】

文脈を読み取る力と、語彙力を問うている。

(6点)

問四 親孝行を絶対的な価値とみなしてきた

【出題意図】

文章読解力と、論理構造を読み取る力を問うている。

(6点)

問五

【解答例】

「親孝行」という言葉を無自覚に使うことで、権力を持つ親が、子どもを支配するのに便利な道具として使うこともできるから。

【出題意図】

文章作成力と、文章の論理構造を読み取る力を問うている。

(8点)

問六 エ

【出題意図】

全体的な文章読解力を問うている。

(6点)

Ⅲ (計44点)

問一 不意を衝かれ

【出題意図】

文章読解力と、論理構造を読み取る力を問うている。

(6点)

問二 A・ア B・エ C・ク D・サ E・ソ

【出題意図】

文脈を読み取る力と、語彙力を問うている。

(各2点×5＝10点)

問三 ウ オ

【出題意図】

文章読解力を問うている。

(各3点×2＝6点)

問四 ア オ

【出題意図】

文章読解力と、想像力を問うている。

(各3点×2＝6点)

問五 イ

【出題意図】

文章読解力と、想像力を問うている。

(5点)

問六

【解答例】

特異な心理機制を外し日本社会の脆弱性を高めなためには、できるだけ網羅的かつ具体的に「起こり得る最悪の事態」について想像することを筆者は求めている。これに対して、私も賛成であり、明るい未来を盲目的に展望するだけではいけないと考える。そこに潜むリスクも客観的かつ社会の合意をもって想像すべきである。

【出題意図】

文章作成力と、文章の論理構造を読み取る力を問うている。

(11点)